

## 実践⑥ 指宿市立指宿図書館

### 1 はじめに

指宿図書館の歴史は大正13年にまで遡る。指宿に図書館が創設されて今年で95年目になる。これまで海音寺潮五郎氏や、椋鳩十氏、島尾敏雄氏など文化人との関わりもあり、親子読書20分間運動に積極的に参加してきた図書館であった。椋氏の指導を仰ぎながら昭和30年から始まった「柳和親子読書会」が発行した『文集 柳和』は、現在も発行されている『文芸いぶすき』につながっており、平成30年で第63号を迎えた。

平成19年度から指定管理者による運営となり新しい試みも始まりながら、図書館と市と市民が力を合わせて共に過ごしやすく利用しやすい図書館となるように努力している。



### 2 基本データ（指宿図書館・山川図書館合算分）

- (1) 指宿市人口 39,866人（平成31年1月1日現在）
- (2) 蔵書冊数 160,253冊（平成30年3月31日現在）
- (3) 児童書数 48,706冊（全体の約30%）
- (4) 年間貸出冊数 159,200冊（1日平均 約436冊）
- (5) 年間入館者数 771,30人（1日平均 約211人）
- (6) 年間貸出人数 34,176人（1日平均 約93人）
- (7) 団体貸出数 1,274回
- (8) 団体貸出冊数 22,814冊
- (9) レファレンス回数 5,695回（県内市町村図書館平均2,599回）
- (10) 職員数 12人（正規職員7人，パート職員5人，うち司書9人）



### 3 児童図書館員と児童サービスについて

公共図書館において児童サービスは欠くことのできないサービスである。司書は、読む喜びや自らが求め調べ、そして知る楽しみを子どもたちに知ってもらうために、子どもと本を結び付ける活動を担う人であると言える。そのために「子どもを知る、子どもの本を知る、両者を結び付ける方法を知る」という3点を柱に、自分のことについては自分で判断・決定でき、責任を自覚し義務を果たすという自立した未来の市民を育てることに向けて、子どもたちの「心」を育てることに関わっているという点を意識し、業務に当たっている。

### 4 児童サービスに関する取組

#### (1) マタニティおはなし会

保健センターからの依頼により2～3か月に1回、夜のマタニティスクールの中で30分間、妊娠中、出産、産後に役立つ本を中心に紹介している。

#### (2) おはなし会、出張おはなし会、おはなし会指導

「えほんのひろば」支援や関連団体出演による「おはなしのとびら」の開催、市内のこども園や学校へのおはなし会、県立指宿養護学校への昼休みおはなし会などを行っている。

(3) よるのおはなし会

自然科学体験や図書館ミステリーツアーなど、体験活動つきのおはなし会を行っている。

(4) ブックスタート

社会教育課との連携事業。生涯学習としての「本との出会い」として、乳児健診を受診した赤ちゃんに絵本などをプレゼント。また、赤ちゃんが生まれた記念に利用者貸出カードを作り、図書館ユーザーとしての一歩を踏み出してもらう。図書館員が制作した手作りの紙芝居をお母さん方に読み、赤ちゃんに本を読む意義を伝えている。



(5) 小学生による「まちたんけん」受入れ、遠足、施設体験、職場体験、高校生のインターンシップ受け入れなど。

(6) 子ども司書養成講座支援

(7) 学校支援

リクエスト、団体貸出、配本、調べ学習支援、職員研修、初任者研修、校長及び教頭研修会内での図書館紹介、学校図書館事務職員部会への参加、朝読支援、アニメシオン、ブックトーク、子ども司書養成講座への協力、市内学校で使われている教科書コーナーの設置、学年毎の教科書関連棚設置、司書まなびの会支援など。



(8) 学習室 (Wi-Fi, お弁当を食べる等の休憩室あり)

(9) ビデオアニメ館 (子ども映画会) の開催やDVD等の視聴覚資料視聴コーナー

\* 館内の環境整備として、授乳室やおむつ交換ベッド、授乳用の電気ケトル、トイレ内ベビーシート、館内でのカート、ベビーカー、クーファン (赤ちゃん用のカゴ)、本を入れるための買い物かごなどがある。

喜ばれているサービスに「申請用紙記入時」や「ママのトイレの時」に赤ちゃんを一時抱っこするサービスがある。



## 5 おわりに

指宿市で育つ子どもたちの傍らにいつも図書館があり、子どもたちが好奇心や探求心を持ち、知る喜びを得るお手伝いできればと思っている。そのために今後も研修等に参加するなど、専門的スキル向上のため研鑽を積み、各関係団体・地域・保護者等と連携を組み合わせながらイベント開催やワークショップを実施したい。また、必要な資料を収集・整理し、その円滑な利用に供することのできるよう努めながら魅力的な児童サービスの運営に努めていきたいと思う。